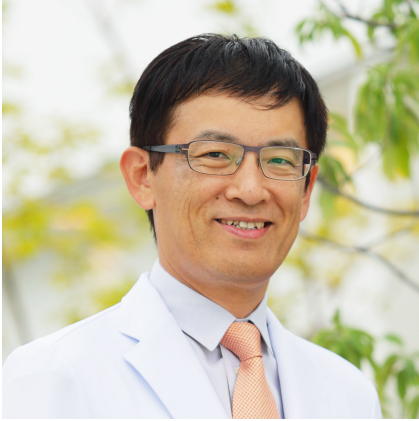


口腔感染制御を通して国民の全身を守る歯科医療
～糖尿病から震災後肺炎まで～

にしだわたる糖尿病内科 院長 西田 亙



歯周病と糖尿病の関連性が着目されるようになった背景には、“炎症”というキーワードが存在します。歯周病は、口腔感染による慢性微少炎症がその本態です。糖尿病もまた脂肪細胞が脂質を貯め込み、局所的な慢性炎症を引き起こすことが、原因のひとつであると考えられています。歯周病と糖尿病で起きている慢性炎症は、炎症性ホルモンの分泌を通じて、インスリンが効きにくい状態をもたらし、結果として血糖値を上昇させます。

この「炎症を通じて歯周病と糖尿病がつながっている」という事実は、一般市民はもちろん、医科の間でもそれほど認知されていないように感じます。しかし、「口腔は全身の窓である」ことを意識して診察するようになると、実に多くのことが見えて参りました。今日の講演では、私自身が経験した症例を通して、口腔の衛生状態が命に関わるほどの事態を招いたり、日々の歯周治療が、インスリンにも勝る劇的な効果をもたらし得ることをご紹介致します。

歯科医院における慢性歯周炎の治療は、将来やって来るであろう糖尿病発症の運命から、目の前の患者さんを救うことにつながりますし、阪神淡路大震災や東日本大震災で注目されることになった震災後肺炎もまた、口腔感染症の制御により、発症を防ぐことができる好例と言えます。

口腔感染症が全身に与える影響、そして専門的口腔ケアの意義を医科や国民が理解した時、人々に“健口と健幸”が訪れることでしょう。

▷ プロフィール

西田 亙・にしだわたる糖尿病内科 院長

広島県広島市出身

昭和 63 年 愛媛大学医学部卒業

平成 5 年 愛媛大学大学院医学系研究科修了（医学博士）

平成 6 年 愛媛大学医学部・第二内科 助手

平成 9 年 大阪大学大学院医学系研究科・神経生化学 助手

平成 14 年 愛媛大学医学部附属病院・臨床検査医学(糖尿病内科) 助手

平成 20 年 愛媛大学大学院医学系研究科・分子遺伝制御内科学(糖尿病内科) 特任講師

平成 24 年 にしだわたる糖尿病内科 開院、現在に至る

▷ 歯科関連著作

- 西田亙, 原瀬忠広, こんなに歯科に身近な糖尿病, 歯科衛生士, クインテッセンス出版, 39 (12):57, 2015
- 西田亙ら, 医科歯科社会連携による健口から健幸への道のり, 日本歯科医師会雑誌, 68 (1):35, 2015
- 西田亙, 糖尿病合併症事典: 歯周病 (慢性歯周炎), 糖尿病診療マスター, 医学書院, 12 (3):279, 2014

▷ インタビュー記事

- 丹羽麻理, お医者さんの話を聞いてみよう, デンタリズム, No.23, 18-21, 2016
- 相田能輝, 糖尿病対策に不可欠な医科歯科連携 社会病克服に奔走する開業医の話, 医薬経済, Vol.1512, 60-62, 2016